

専門基礎分野 21科目 21単位 510時間

専門職としての科学的思考、人間の健康に関する問題解決に必要な基礎的知識を学ぶ。
また、保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、社会資源を活用するための知識を学ぶ。
専門基礎分野 人体の構造と機能

科目名	解剖生理学 I (総論) Anatomy and Physiology I		講師名・ 実務経験	川越 礼子・医学博士	
講義時期	1年前期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 解剖生理学 (医学書院)				
講義のねらい	人体を構成している組織・細胞の構造と機能を知り、それが人体すべてにどのような意味を持ち、生命維持や生活にどのように関与しているのかを学ぶ。				
学習目標	1. 人体の基本的構造が理解できる。 2. 血液成分と機能について理解できる。 3. 血液循環(体循環、肺循環、微小循環)について理解できる。				
講義概要	1. 人体の基本的構造 2. 血液成分と機能(赤血球、白血球、血小板、血漿) 3. 血管の構造と血液循環 4. ポンプとしての心臓 5. スターリングの法則 6. 細胞と器官、臓器(胃、肝、肺、腎)				
講義内容	1回目	生体恒常性、生体の構成			
	2回目	細胞の構造、機能			
	3回目	細胞の構造、機能(イオン、組織、モル)			
	4回目	組織、器官系			
	5回目	血液①			
	6回目	血液②			
	7回目	心臓、血液循環			
	8回目	試験			

専門基礎分野 人体の構造と機能

科目名	解剖生理学Ⅱ(形態、維持機能) Anatomy and Physiology II		講師名・ 実務経験	川越 礼子・医学博士	
講義時期	1年通年	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)				
講義のねらい	身体の構造及び運動機能・生命維持の原動となる器官の形態(構造)と機能について学ぶ。				
学習目標	1. 骨格系、筋系における人体の正常な形態(構造)と機能を理解できる。 2. 呼吸器、循環器、泌尿器、消化器系における人体の正常な形態(構造)と機能を理解できる。				
講義概要	<p><形態></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋肉(筋肉エネルギー)・骨の機能 2. 骨の構造とはたらき 3. 筋肉、神経について 4. 骨格と関節 <p><維持機能></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸に関する器官とそのはたらき 2. 循環に関する器官とそのはたらき(心臓血管系・血圧について) 3. 胎児循環 4. リンパ系の循環 5. 排泄に関する器官とそのはたらき(腎臓・膀胱) 6. 消化に関する器官とそのはたらき(胃・小腸・肝臓・膵臓) 				
講義内容	<p>1回目 骨格系(骨)構造</p> <p>2回目 骨格系(骨)機能</p> <p>3回目 骨格系(筋肉)構造</p> <p>4回目 骨格系(筋肉)機能</p> <p>5回目 神経</p> <p>6回目 呼吸器系(構造・機能)①</p> <p>7回目 呼吸器系(構造・機能)②</p> <p>8回目 呼吸器系、循環器系①</p> <p>9回目 呼吸器系、循環器系②</p> <p>10回目 循環器系①</p> <p>11回目 循環器系②</p> <p>12回目 消化器系(構造・機能)</p> <p>13回目 消化器系、泌尿器系</p> <p>14回目 泌尿器系</p> <p>15回目 試験</p>				

専門基礎分野 人体の構造と機能

科目名	解剖生理学Ⅲ(調節と統合、継続性) Anatomy and Physiology III		講師名・ 実務経験	茂泉 佐和子・大学講師	
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定					
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)				
試験予定	1年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 解剖生理学(医学書院)				
講義のねらい	1. 人体の諸機能が統合して生命を維持するために必要な調節機構について学ぶ。 2. 人間の種族保存の本能、仕組みおよび、種を維持していくための生殖機能について学ぶ。				
学習目標	1.神経組織の構造・興奮伝達の仕組み、中枢神経系の働きについて理解できる。 2.脳の構造と機能について理解できる。 3.脊髄の構造と機能、脊髄神経、自律神経の働きについて理解できる。 4.生殖器の機能、妊娠・分娩のメカニズムについて理解できる。				
講義概要	<調節と統合> 1. 神経組織の構造・興奮伝達の仕組み 2. 中枢神経系について 3. 脳の構造と機能 4. 脊髄の構造と機能 5. 脊髄神経・自律神経 6. 視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚・平衡感覚の仕組み 7. 内分泌系の機能・ホルモンの作用 <継続性> 1. 生殖器系について 2. 妊娠・分娩について				
講義内容	1回目 神経とは 2回目 大脳 3回目 間脳、中脳、橋、延髄 4回目 末梢神経 5回目 末梢神経、眼 6回目 眼、耳 7回目 鼻、味覚、体性感覚、内分泌導入 8回目 内分泌(視床、下垂体、甲状腺) 9回目 内分泌(甲状腺の続き、副腎) 10回目 内分泌(副腎の続き、膵臓) 11回目 内分泌(脂肪、心臓、腎、まとめ) 12回目 生殖① 13回目 生殖② 14回目 生殖③ まとめ、問題演習 15回目 試験				

専門基礎分野 人体の構造と機能

科目名	生化学 Biochemistry		講師名・ 実務経験	杉崎 紀子・大学教授(生化学)	
講義時期	1年前期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【2】生化学(医学書院)				
講義のねらい	生体内の化学反応について理解し、健康の維持、病気の改善のための基礎的知識を学ぶ。				
学習目標	人体を構成している化学物質の性質、機能、その分布及びこれらの物質の代謝について理解できる。				
講義概要	<p>1. 生体を構成している物質</p> <p>①糖質について(単糖類・多糖類の構造と性質)</p> <p>②脂質について</p> <p>③タンパク質について</p> <p>④核酸について</p> <p>⑤水や無機質について</p> <p>⑥ホルモン</p> <p>2. 生体内の物質代謝</p> <p>①酵素</p> <p>②ビタミンと補酵素</p> <p>③糖質代謝</p> <p>④脂質代謝</p> <p>⑤タンパク質代謝</p> <p>⑥核酸代謝</p>				
講義内容	1回目	受講注意、基礎知識、糖質			
	2回目	糖質代謝			
	3回目	脂質			
	4回目	脂質代謝			
	5回目	タンパク質、アミノ酸			
	6回目	タンパク質、アミノ酸代謝			
	7回目	酵素、ビタミン			
	8回目	ポルフィリン代謝			
	9回目	核酸の基礎知識			
	10回目	遺伝情報のしくみ(1)			
	11回目	遺伝情報のしくみ(2)			
	12回目	情報伝達物質			
	13回目	代謝最終産物の処理機構			
	14回目	補足とまとめ			
	15回目	試験			

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	疾病論 I 病理学 Pathology		講師名・ 実務経験	井上 雅文・医師																														
講義時期	1年通年	講義回数	15回	単位・時間数																														
		講義方法	講義		1単位(30)																													
試験予定	1年次12月																																	
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする																																	
参考書	疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学(メヂカルフレンド社)																																	
講義のねらい	病理学を学ぶ事で医学用語の習得とともに、科学的な視点から病気を理解し、患者の病気を看られるようにする。																																	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の反応と恒常性(ホメオスタシス)について理解できる。 2. 免疫のしくみについて理解できる。 3. 腫瘍の種類、原因、発生のしくみ、体に与える影響が理解できる。 4. 循環障害の原因、発生のしくみ、体に与える影響について理解できる。 5. 炎症の原因、発生のしくみ、体に与える影響について理解できる。 																																	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔について 2. 内分泌・外分泌について 3. 免疫について 4. 腫瘍(新生物)について(体細胞が癌細胞になる仕組み) 5. 良性腫瘍・悪性腫瘍について 6. 循環障害(血栓・塞栓、ショック) 7. 炎症について 8. アレルギーについて 																																	
講義内容	<table border="0"> <tr><td>1回目</td><td>病気と病理学</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>老化と死</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>組織・細胞に生じる異常と修復</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>炎症</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>免疫とその異常</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>止血</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>循環の異常、病理解剖について</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>先天異常</td></tr> <tr><td>9回目</td><td>感染症</td></tr> <tr><td>10回目</td><td>腫瘍</td></tr> <tr><td>11回目</td><td>環境による疾患</td></tr> <tr><td>12回目</td><td>生活習慣病</td></tr> <tr><td>13回目</td><td>難病</td></tr> <tr><td>14回目</td><td>プレテストと解説</td></tr> <tr><td>15回目</td><td>試験</td></tr> </table>				1回目	病気と病理学	2回目	老化と死	3回目	組織・細胞に生じる異常と修復	4回目	炎症	5回目	免疫とその異常	6回目	止血	7回目	循環の異常、病理解剖について	8回目	先天異常	9回目	感染症	10回目	腫瘍	11回目	環境による疾患	12回目	生活習慣病	13回目	難病	14回目	プレテストと解説	15回目	試験
1回目	病気と病理学																																	
2回目	老化と死																																	
3回目	組織・細胞に生じる異常と修復																																	
4回目	炎症																																	
5回目	免疫とその異常																																	
6回目	止血																																	
7回目	循環の異常、病理解剖について																																	
8回目	先天異常																																	
9回目	感染症																																	
10回目	腫瘍																																	
11回目	環境による疾患																																	
12回目	生活習慣病																																	
13回目	難病																																	
14回目	プレテストと解説																																	
15回目	試験																																	

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	疾病論Ⅱ 微生物学 Microbiology		講師名・ 実務経験	伊豆原 るな・医師	
講義時期	1年前期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学 (医学書院)				
講義のねらい	1. 微生物の特徴と宿主の性質、微生物に対する宿主の反応を学ぶ。 2. 免疫と感染症に関する基礎的知識を学ぶ。				
学習目標	1. 微生物の概要、一般的特徴、その性質と宿主の反応を理解できる。 2. 感染のメカニズムと免疫のしくみを理解できる。 3. 主な感染症とその診断・予防・治療法について理解できる。				
講義概要	1. 微生物の概要 2. 細菌の概要、細菌の構造と染色法、細菌の培養と分類 3. 細菌、ウイルス、原虫の分類 4. 感染と発病 5. 感染源と感染経路、感染症の予防 6. 免疫学 ①免疫の概要 ②アレルギー 7. 化学療法 8. 感染症 ①気道感染症 ②腸管感染症 ③尿路感染症 ④性感染症 ⑤皮膚・粘膜の感染症 ⑥その他				
講義内容	1回目 自己紹介～オリエンテーション、生物の復習、微生物学とは？ 2回目 細菌、ウイルス、真菌、原虫の構造、代謝増殖について① 3回目 細菌、ウイルス、真菌、原虫の構造、代謝増殖について② 4回目 化学療法薬、薬剤耐性について 5回目 感染と保菌の違い、感染経路について① 6回目 感染と保菌の違い、感染経路について② 7回目 感染症の診断(各種検査法について、院内感染) 8回目 感染症の予防(減菌、消毒、スタンダード・プリコーション、ワクチン) 9回目 免疫(自然免疫、獲得免疫)① 10回目 免疫(自然免疫、獲得免疫)② 11回目 微生物各論(グラム陽性菌、陰性菌) 12回目 微生物各論(グラム陽性菌、陰性菌、マイコプラズマ等) 13回目 微生物各論(DNAウイルス、RNAウイルス、真菌等) 14回目 微生物まとめ 15回目 試験				

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論 I Therapeutics I		①呼吸器	講師名・ 実務経験	①堀江 美正・医師
			②循環器		②綾部 征司・医師
			②血液		②大坂 学・医師
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	各1単位(30)の内(15)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学2 呼吸器(医学書院) ②系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学3 循環器、成人看護学4 血液・造血器(医学書院)				
講義のねらい	呼吸器、循環器、造血器の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<p><呼吸器> 1. 呼吸器系の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。</p> <p><循環器> 1. 循環器系(心臓・血管)の障害により現れる症状の原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。</p> <p><血液> 1. 造血器の障害によって現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。</p>				
講義概要	<p>①呼吸器</p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸器の解剖 呼吸のメカニズムと呼吸の生理 (酸塩基平衡も含む) 呼吸器症状と病態生理 換気の異常を来たす疾患について 感染症、肺癌、結核、慢性閉塞性肺疾患 <p>②循環器</p> <ol style="list-style-type: none"> 心臓・血管の構造と機能 循環系を評価する検査の見方 心臓カテーテル検査、心電図 生命維持機能を障害する疾病 高血圧症、虚血性心疾患 心不全、心筋症、弁膜症、不整脈など <p>②血液</p> <ol style="list-style-type: none"> 血液の生理と造血のしくみ 造血機能を障害する疾病 赤血球系の疾患/貧血、多血症、関連する検査 白血球系の疾患/白血球増加症、白血球減少症(白血病・骨髄異形成症候群) リンパ網内系疾患/異常蛋白血症/出血性疾患 				
講義内容	《①呼吸器》		《②循環器・血液》		
	1回目	呼吸器の機能と構造	1回目	循環器の構造と機能・病態生理	
	2回目	症状とその病態生理	2回目	虚血性心疾患	
	3日目	検査と治療・処置	3回目	血液疾患、貧血その他	
	4回目	感染症	4回目	血液疾患、造血器腫瘍	
	5回目	感染症以外の肺炎、気道病変	5・6回目	不整脈、心不全	
		呼吸不全	7回目	弁膜症、動脈静脈疾患	
	6回目	肺腫瘍・肺血栓塞栓症		先天性心疾患	
	7回目	SAS・胸膜疾患・横隔膜疾患	8回目	試験 (呼吸器・循環器)	

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論Ⅱ TherapeuticsⅡ		①消化管・胆・膵	講師名・ 実務経験	①森下 慎二・医師																								
			②肝		②藤江 肇・医師																								
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内(22)																								
		講義方法	講義		②1単位(30)の内(8)																								
試験予定	1年次12月																												
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする																												
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器(医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器(医学書院)																												
講義のねらい	消化器の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。																												
学習目標	<p><消化管></p> <ol style="list-style-type: none"> 消化管の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。 <p><肝・胆・膵></p> <ol style="list-style-type: none"> 肝臓、胆嚢、膵臓系の疾患により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。 																												
講義概要	<p>《①消化管》</p> <ol style="list-style-type: none"> 消化器系が障害された対象の症状とそのメカニズム 消化器系が障害された対象への検査 消化器系が障害された対象が使用する薬物 消化器系の疾患とその特徴 食道、胃・十二指腸潰瘍、腸(大腸癌、ポリープ、イレウスなど) <p>《②肝・胆・膵》</p> <ol style="list-style-type: none"> 肝臓について <ol style="list-style-type: none"> ①肝臓の解剖生理 ②肝機能が障害された時の症状とそのメカニズム 黄疸、肝性脳症、腹水、門脈圧亢進 ③肝臓の代表的な疾患と検査、治療 肝硬変・肝炎・肝癌等 膵臓・胆道系 <ol style="list-style-type: none"> ①膵臓・胆道系の解剖生理 ②膵臓・胆道系の機能が障害された時の症状とそのメカニズム ③膵臓・胆道系の代表的な疾患(膵臓癌、胆管癌、胆石症など)と検査、治療 																												
講義内容	<p>《①消化管・胆・膵》 《②肝》</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目 症状と病態生理</td> <td>1回目 肝臓の構造と機能、肝臓疾患に特有の症状、徴候</td> </tr> <tr> <td>2回目 検査</td> <td>2回目 肝臓の検査</td> </tr> <tr> <td>3回目 治療</td> <td>3回目 肝臓の疾患Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>4回目 食道</td> <td>4回目 肝臓の疾患Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>5回目 胃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6回目 大腸Ⅰ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7回目 大腸Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6回目 胆膵Ⅰ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7回目 胆膵Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8回目 胆膵Ⅲ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9回目 胆膵Ⅲ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10回目 試験 (消化器・肝・胆・膵)</td> <td></td> </tr> </table>					1回目 症状と病態生理	1回目 肝臓の構造と機能、肝臓疾患に特有の症状、徴候	2回目 検査	2回目 肝臓の検査	3回目 治療	3回目 肝臓の疾患Ⅰ	4回目 食道	4回目 肝臓の疾患Ⅱ	5回目 胃		6回目 大腸Ⅰ		7回目 大腸Ⅱ		6回目 胆膵Ⅰ		7回目 胆膵Ⅱ		8回目 胆膵Ⅲ		9回目 胆膵Ⅲ		10回目 試験 (消化器・肝・胆・膵)	
1回目 症状と病態生理	1回目 肝臓の構造と機能、肝臓疾患に特有の症状、徴候																												
2回目 検査	2回目 肝臓の検査																												
3回目 治療	3回目 肝臓の疾患Ⅰ																												
4回目 食道	4回目 肝臓の疾患Ⅱ																												
5回目 胃																													
6回目 大腸Ⅰ																													
7回目 大腸Ⅱ																													
6回目 胆膵Ⅰ																													
7回目 胆膵Ⅱ																													
8回目 胆膵Ⅲ																													
9回目 胆膵Ⅲ																													
10回目 試験 (消化器・肝・胆・膵)																													

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論Ⅲ TherapeuticsⅢ		①運動器	講師名・ 実務経験	①矢部 裕一郎・医師 ②今井 英明 ・医師 ②黒川 隆史 ・医師
			②脳神経		
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(12) ②1単位(30)の内の(17)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次2月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器(医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 7 脳・神経(医学書院)				
講義のねらい	運動器・脳神経系の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の形態異常と機能異常である骨格・筋系の障害および診断・治療について理解できる。 2. 障害が人体の生理機能に及ぼす影響と、日常生活動作の変化を理解し、運動器疾患患者の看護を行うために必要な基礎的知識を理解できる。 <p>《脳神経》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経障害の原因、診断、検査の目的と方法について理解できる。 2. 治療に伴う合併症の管理について理解し、脳神経系疾患患者の看護を行うために必要な基礎的知識を理解できる。 				
講義概要	<p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科における診察と治療 2. 先天性疾患 3. 骨折について 4. 脱臼・捻挫・打撲 5. 骨関節の炎症性疾患 6. 骨腫瘍 7. 脊椎の疾患 8. 下肢の疾患 9. 麻痺性疾患 10. 筋および腱の疾患 <p>《脳神経》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経・脳の血管・脊髄の解剖生理 2. 脳神経系疾患患者の症状と検査 意識障害・運動機能障害・けいれん・頭蓋内圧亢進・頭痛・髄膜刺激症状 3. 脳神経系が障害されて起こる疾患 脳腫瘍、頭部外傷、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症等 				
講義内容	<p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 症状とその病態生理、診断・検査 2回目 ギプス～リハビリテーションまで 骨折 3回目 脊髄をのぞく骨折治療、脱臼、捻挫、 4回目 捻挫、腱、先天性疾患、リウマチ、痛風 5回目 痛風、骨腫瘍、骨代謝 6回目 フレイル、ロコモティブ、骨端症 <p>《脳神経》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 神経解剖、機能局在と脳血管 2回目 脊髄疾患 3回目 末梢神経疾患 4回目 頭蓋内圧亢進と意識障害 5回目 筋、神経、筋接合部疾患 6回目 脱髄変性疾患 7回目 認知症 8回目 脳外科、脳血管障害、 9回目 試験（運動器・脳神経） 脳腫瘍、脊髄・外傷 				

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論Ⅳ TherapeuticsⅣ		①内分泌、代謝・アレルギー	講師名・実務経験	①神田 周平 ・医師
			②泌尿器		①大阪 学 ・医師
			②腎		②赤倉 功一郎 ・医師
			③女性生殖器		②大瀬 貴元 ・医師
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(15)
		講義方法	講義		②1単位(30)の内の(10)
					③1単位(30)の内の(5)
試験予定	1年次2月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学6 内分泌・代謝、成人看護学11 アレルギー(医学書院)				
	②系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学8 腎・泌尿器、成人看護学5 消化器(医学書院)				
	②系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学9 女性生殖器(医学書院)				
講義のねらい	内分泌・代謝、免疫機構、腎・泌尿器により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<p>《内分泌・代謝、アレルギー》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌の不均衡や代謝異常、免疫機構の破綻により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。 3. 糖尿病患者への指導方法が理解できる。 4. 糖尿病患者の生活習慣や価値観を尊重した支援の重要性について考えることができる。 <p>《腎・泌尿器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎泌尿器系の障害により現れる症状について原因・病態生理を理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査及び治療法を理解できる。 3. 排泄障害やストーマ造設患者へのケアについて理解できる。 4. 排泄障害やストーマ造設患者の心理/社会的影響について考えることができる。 <p>《女性生殖器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器の障害により現れる症状について病態生理が理解できる。 2. 疾患の診断に必要な検査および治療について理解できる。 				
講義概要	<p>《内分泌、代謝、アレルギー》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各ホルモンと疾病の関係、起こる症状、検査の見方、治療 2. 糖尿病(診断基準、症状、治療、合併症)／高脂血症、肥満症 3. 糖尿病患者への指導 4. 膠原病などの自己免疫疾患 <p>《腎・泌尿器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器系の解剖・生理 2. 腎・泌尿器系が障害されて起こる症状と検査 3. 腎・泌尿器系が障害されて起こる疾患 4. 排泄障害やストーマ造設患者へのケア 悪性腫瘍、腎不全、結石症、前立腺肥大症など <p>《女性生殖器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器の疾患と検査、治療 1) 良性疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫) 2) 悪性疾患(子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌) 3) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害) 				
講義内容	<p>《内分泌・代謝、アレルギー》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 代謝と内分泌糖尿病概要 2回目 糖尿病の診断・合併症 3回目 糖尿病の治療 4回目 糖尿病の治療(インスリン)、脂質異常症 5回目 メタボリックシンドローム 高尿酸血症、内分泌総論 6回目 アレルギー1回目 アレルギー、膠原病(症状、治療)① 7回目 アレルギー1回目 アレルギー、膠原病(症状、治療)② <p>《腎・泌尿器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 腎疾患概要1 2回目 腎疾患概要2 3回目 腎・泌尿器 総論 4回目 腎・泌尿器 疾患(5回目 腎・泌尿器 疾患(2)) <p>《女性生殖器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 治療論Ⅳ 女性生殖器 解剖性理／良性疾患 2回目 治療論Ⅳ 女性生殖器 悪性腫瘍／更年期・月経異常／演習問題 3回目 試験 				

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論V Therapeutics V		①眼	講師名・ 実務経験	①間山 千尋・医師
			②皮膚		②石浦 信子・医師 ②船木 智子・認定看護師
			③耳鼻		③月舘 利治・医師
			④歯		④長澤 宏和・医師
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①④1単位(30)の内①(6), ④(7)
		講義方法	講義		②③1単位(30)の内各(8)
試験予定	2年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①専門分野Ⅱ成人看護学13 眼(医学書院) ②専門分野Ⅱ成人看護学12 皮膚(医学書院) ③専門分野Ⅱ成人看護学14 耳鼻咽喉(医学書院)④専門分野Ⅱ成人看護学15 歯・口腔(医学書院)				
講義のねらい	感覚器疾患は全身疾患との関連が深く、日常生活に及ぼす影響が大きいことを踏まえ、感覚器の障害により出現する症状のメカニズムと検査、治療および処置を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<p>《 眼 》 1. 眼の構造、視覚の生理から、眼疾患の主な症状、病態生理を全身との関連において理解できる。 2. 眼疾患が日常生活に及ぼす影響から、心身の苦痛の緩和、疾患の回復援助を理解できる。</p> <p>《 皮膚 》 1. 皮膚の構造と働きから、皮膚疾患の主な症状、病態生理を全身との関連において理解できる。 2. 皮膚疾患が心身に及ぼす影響をから、心身の苦痛の緩和、患者が疾病を正しく受け止め、心身ともに健康な生活が営めるような援助方法を理解できる。</p> <p>《 耳 》 1. 耳鼻咽喉の構造と働きから、耳鼻咽喉疾患の主な症状、病態生理を理解できる。 2. 耳鼻咽喉疾患が日常生活に及ぼす影響から、心身の苦痛の緩和、疾病の回復に向けた援助方法を理解できる。</p> <p>《 歯 》 1. 日常生活を営む上で、歯、口腔の構造と働きが果たす役割を理解できる。 2. 歯、口腔疾患の主な症状と病態生理から、さまざまな苦痛の緩和、疾病の回復援助、歯科保健面での予防教育が果たす役割について理解できる。</p>				
講義概要	<p>《眼》 1. 眼の解剖生理・機能 2. 眼疾患の病態生理と検査、治療、援助</p> <p>《皮膚》 1. 皮膚の解剖生理・機能 2. 皮膚疾患の病態生理と検査、治療、援助 湿疹・皮膚炎, 細菌感染症, 悪性黒色腫</p> <p>《耳鼻》 1. 耳の解剖生理・機能 2. 耳鼻咽喉疾患の病態生理と検査、治療、援助 代表的疾患、経過別援助、援助技術(鼻出血、気管切開、カニューレ交換)</p> <p>《歯》 1. 口腔・歯・歯周組織の解剖生理と機能 2. 顎関節・口腔軟組織の病態生理と検査、治療、援助</p>				
講義内容	<p>《眼》 1回目 眼の構造と機能 2回目 眼疾患の検査・治療 3回目 眼疾患患者の援助</p> <p>《皮膚》 1回目 皮膚科総論(皮膚の機能・構造、発疹学、検査・治療) 2回目 皮膚疾患各論(湿疹・蕁麻疹・薬疹、感染症・付属器) 3回目 皮膚疾患各論(角化症、水痘症、血行障害、膠原病、腫瘍、熱傷) 4回目 スキンケア、褥瘡患者の看護、DESIGN-R</p> <p>《耳鼻》 1回目 耳の解剖、耳疾患① 2回目 耳疾患② 3回目 鼻・副鼻腔の解剖、疾患 4回目 咽頭・喉頭の解剖、疾患</p> <p>《歯》 1回目 歯・口腔の解剖、疾患 2回目 歯・口腔疾患の検査・治療 3回目 歯・口腔疾患患者の援助 4回目 試験 (眼・皮膚・耳鼻・歯)</p>				

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論VI TherapeuticsVI		講師名・ 実務経験	本田祐士 他・医師														
講義時期	2年後期	講義回数	8回	単位・時間数														
		講義方法	講義		1単位(15)													
試験予定	2年次12月																	
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする																	
参考書	系統看護学 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)																	
講義のねらい	疾病により生活行動に障害を持った対象へのリハビリテーションのあり方を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。																	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの基本的考え方が理解できる。 2. 障害者の日常生活行動を再構築するための基本が理解できる。 3. 主な機能障害のリハビリテーションの進め方が理解できる。 4. 障害を持つ人の社会生活復帰への援助について考えることができる。 																	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション総論 <ol style="list-style-type: none"> ①リハビリテーションの思想と対象、分類や分野、関わる多職種 ②リハビリテーション看護の対象、アセスメント、援助方法 2. リハビリテーション各論(廃用症候群、運動器と内部障害) <ol style="list-style-type: none"> ①廃用症候群の定義と関節拘縮や骨・筋萎縮に対する対応 ②包括的呼吸リハビリテーション、自覚的運動強度、リスク管理 3. リハビリテーション各論(脊髄損傷) <ol style="list-style-type: none"> ①脊髄損傷に対する障害の評価と排泄に対する対応 4. リハビリテーション各論(脳血管障害) <ol style="list-style-type: none"> ①脳血管障害の病態と治療 ②脳血管障害のリハビリテーションの流れ ③意識障害や運動障害、構音障害の評価と対応 ④摂食・嚥下のメカニズムと評価・訓練・看護での対応 ⑤高次脳機能障害の原因、種類、評価、訓練、看護での対応 																	
講義内容	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>リハビリテーション総論</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>脊髄損傷、運動器</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>呼吸器、循環器、摂食・嚥下障害</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>中枢神経系</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>高次脳機能障害</td> </tr> <tr> <td>6・7回目</td> <td>リハビリテーション施設見学(4時間) ・国立障害者リハビリテーションセンター ・国立職業リハビリテーションセンター</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>試験</td> </tr> </table>				1回目	リハビリテーション総論	2回目	脊髄損傷、運動器	3回目	呼吸器、循環器、摂食・嚥下障害	4回目	中枢神経系	5回目	高次脳機能障害	6・7回目	リハビリテーション施設見学(4時間) ・国立障害者リハビリテーションセンター ・国立職業リハビリテーションセンター	8回目	試験
1回目	リハビリテーション総論																	
2回目	脊髄損傷、運動器																	
3回目	呼吸器、循環器、摂食・嚥下障害																	
4回目	中枢神経系																	
5回目	高次脳機能障害																	
6・7回目	リハビリテーション施設見学(4時間) ・国立障害者リハビリテーションセンター ・国立職業リハビリテーションセンター																	
8回目	試験																	

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	治療論Ⅶ TherapeuticsⅦ	手術療法	講師名・ 実務経験	山形 誠一・医師 東 久登・医師 小山 洋伸・医師 高野 道俊・医師 叶 典子・医師
講義時期	1年後期	講義回数 15回	15回	単位・時間数 1単位(30)
		講義方法	講義	
試験予定	1年次2月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする			
参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論 (医学書院)			
学習目標	外科的治療・処置が全身に及ぼす影響と、手術療法が行われる代表的疾患と術式、および管理と合併症について理解できる。			
講義概要	<p>《外科総論》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療について 2. 外科的治療における諸問題 3. インフォームドコンセント 4. 損傷・炎症・腫瘍について <p>《外科各論》</p> <p>[上部消化管] 胃・十二指腸疾患について</p> <p>[下部消化管] 大腸癌、下部消化管の疾患について</p> <p>[胸部] 乳癌、肺癌 悪性腫瘍に関する疫学</p> <p>[頸部、肝臓、胆嚢、膵臓] 甲状腺、上皮小体、リンパ系疾患、肝癌、胆嚢癌、膵臓癌</p>			
講義内容	<p>1回目 外科的治療について</p> <p>2回目 胃・十二指腸の解剖生理</p> <p>3回目 胃・十二指腸潰瘍の症状と治療</p> <p>4回目 胃癌の症状と検査、治療と術後合併症</p> <p>5回目 小腸・大腸の構造と機能と疾患(憩室、炎症性腸疾患)</p> <p>6回目 腸閉塞の種類と症状、診断と治療 直腸・肛門の疾患の症状と治療</p> <p>7回目 大腸がんの症状、診断・検査と治療</p> <p>8回目 乳房・乳腺の解剖生理 乳腺腫瘍の分類、診断と治療</p> <p>9回目 肺の解剖生理 肺癌の症状、診断と治療</p> <p>10回目 気胸治療の基本、胸腔ドレーンの仕組み</p> <p>11回目 甲状腺・副甲状腺の機能 疾患の症状と治療</p> <p>12回目 肝臓の解剖生理 肝炎・肝癌の症状、診断と治療①</p> <p>13回目 肝炎・肝癌の症状、診断と治療②</p> <p>14回目 胆嚢・膵臓の解剖生理 胆嚢癌・膵臓癌の症状、診断と治療</p> <p>15回目 試験</p>			

専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	栄養学 Nutrition		講師名・ 実務経験	浦本 和美 他 管理栄養士
講義時期	1年後期	講義回数	14回	単位・時間数
		講義方法	講義・実習	
試験予定	1年次2月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	専門基礎分野 栄養学 (医学書院) 食品成分表(女子栄養大学出版会)			
講義のねらい	人間の健康維持、疾病の発病や治療に栄養が大きな役割を持っていることを認識し、食事療法の基本について理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。			
学習目標	1. エネルギー算出方法、日常生活強度、食品交換表等の食事療法に必要な基礎知識を理解できる。 2. 代表的な疾患について、病態生理と栄養の問題を関連して考え食事療法を理解できる。 3. 食事療法メニューを考え、調理できる。			
講義概要	1. 栄養学の歴史 2. 栄養の基礎知識 ①エネルギー算出方法・各栄養素の算出方法 ②日常生活強度・性/年齢階級別 ③1単位分の食品 ④食品交換表の使い方 3. 栄養素の役割 4. 栄養補給法 ①経管栄養法 ②経静脈栄養法 5. 食事療法 ①肝疾患、膵疾患 ②腎疾患 ③高血圧 ④心疾患 ⑤肥満 ⑥脂質異常症・動脈硬化症 ⑦胃切除後 ⑧痛風・骨粗鬆症 ⑨糖尿病 ⑩貧血 ⑪クローン病 6. 調理実習 ①高血圧食 ②糖尿病食			
講義内容	1回目 人間栄養学と看護 2回目 栄養素の種類とはたらき 3回目 食物消化吸収と栄養素の吸収、代謝 4回目 エネルギー代謝、栄養アセスメント、ケアマネジメント 5回目 ライフステージと栄養 6回目 ライフステージと栄養、食品と食事 7回目 臨床栄養① 8回目 臨床栄養② 9回目 グループワーク(高血圧症の食事療法) 10・11回目 調理実習(高血圧食) 12回目 グループワーク(糖尿病の食事療法) 13・14回目 調理実習(糖尿病食) 15回目 試験 ※小グループで治療食を考え、献立をもとに調理実習をします(2回)			

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	医療概論 I (医療システム) Introduction to Medicine I		講師名・ 実務経験	関根 信夫 ・医師	
講義時期	1年前期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書					
講義のねらい	日本の医療の歴史と現代の医療システムを学び、医療の社会的役割を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歴史を理解できる。 2. 保健医療福祉の職種と役割が理解できる。 3. 現代日本の保健医療福祉サービスシステムと問題点について理解し、今後の課題について考えることができる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の近代化と医療の発展 2. 現代日本の保健医療福祉システム <ol style="list-style-type: none"> ①システムを支える人々 ②保健医療サービスと経済 <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設、医療関連施設 ・医療保険について ③医療の課題 				
講義内容	1回目 医療の歴史 2回目 日本人の健康と疾病 3回目 日本の医療システム 4回目 病院へ行こう 5回目 医療の質と医療安全 6回目 救急・災害医療、医の倫理と患者の権利 7・8回目 プロフェッショナリズム				

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	医療概論Ⅱ(医療倫理) Introduction to Medicine Ⅱ		講師名・ 実務経験	北村 聖 ・医師
講義時期	3年後期	講義回数	8回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	3年次11月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	系統看護学講座 医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ 第2版 (医学書院)			
講義のねらい	医療の進歩が生命倫理や現代社会に投げかけている問題を考える。			
学習目標	1. 医療現場における生命倫理について考えることができる。			
講義概要	1.医療倫理の歴史 2.医療倫理学の方法 3.死と喪失 4.性と生殖 5.患者の権利と公共の福祉			
講義内容	1回目 医療倫理の歴史 2回目 死と喪失 3回目 医療倫理の基本的概念、倫理原則、ジレンマ 4回目 倫理的意味決定、グループワーク 5回目 性と生殖 6回目 患者の権利と公共の福祉 7回目 医療倫理、コミュニケーションのワークショップ 8回目 試験			

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	公衆衛生学 I (基礎概念) Public Health		講師名・ 実務経験	徳永 睦 ・大学非常勤講師																
講義時期	2年前期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)															
		講義方法	講義																	
試験予定	2年次6月																			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。																			
参考書	推薦図書「公衆衛生がみえる」(MEDIC MEDIA)																			
講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康の保持・増進を図ることを目的とし、集団を対象とした保健活動を理解するための基礎的知識を学ぶ。 2. 国際社会及び将来の日本社会を展望し、公衆衛生のあり方について考える力を養う。 																			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の健康と集団の健康との関係を人口動態や生活環境、保健統計を通して理解できる。 2. 諸外国の実情を知り、これからの公衆衛生のあり方について考えることができる。 																			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学とは 疫学について 2. 健康の概念 3. 第1次予防、第2次予防、第3次予防 4. 各保健統計指標の見方 5. 国際化社会と公衆衛生 6. 今後の課題と展望 																			
講義内容	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>公衆衛生とは</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>疫学的方法論①</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>疫学的方法論②</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>人口統計、保健統計</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>環境対策</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>感染症</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>試験</td> </tr> </table>				1回目	公衆衛生とは	2回目	疫学的方法論①	3回目	疫学的方法論②	4回目	人口統計、保健統計	5回目	環境対策	6回目	感染症	7回目	まとめ	8回目	試験
1回目	公衆衛生とは																			
2回目	疫学的方法論①																			
3回目	疫学的方法論②																			
4回目	人口統計、保健統計																			
5回目	環境対策																			
6回目	感染症																			
7回目	まとめ																			
8回目	試験																			

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	公衆衛生学Ⅱ(実践) Public Health		講師名・ 実務経験	徳永 睦 ・大学非常勤講師	
講義時期	3年前期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	3年次11月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	推薦図書「公衆衛生がみえる」(MEDIC MEDIA)				
講義のねらい	家族や職場・地域での健康の保持・増進の具体的な施策について学ぶ。				
学習目標	社会の健康水準を高めるための組織的な保健活動について理解できる。				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症とその予防衛生 2. 食品保健と栄養 3. 学校保健 4. 産業保健 5. 地域保健、精神保健福祉について 6. 生活環境の保全 7. 生活習慣病、難病について 				
講義内容	<p>1回目 地域保健</p> <p>2回目 母子保健</p> <p>3回目 産業保健</p> <p>4回目 生活習慣病対策</p> <p>5回目 精神保健、医療、介護制度</p> <p>6回目 学校保健</p> <p>7回目 総合復習</p> <p>8回目 試験</p>				

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	社会福祉 Social Welfare		講師名・ 実務経験	有村 大士・社会福祉士																	
講義時期	2年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)																
		講義方法	講義																		
試験予定	2年次12月																				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。																				
参考書	専門基礎分野 社会保障・社会福祉(医学書院)																				
講義のねらい	国民の生存権を保障し、生活水準を高めるための保健医療福祉の現状を学ぶ。																				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本社会における保健医療福祉の現状を理解できる。 2. 社会福祉制度の概要を理解し、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用方法を理解できる。 3. 現代の社会福祉制度とサービスの実際を将来の展望を含めて理解できる。 																				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎概念と歴史 2. 社会保障制度 3. 社会福祉の分野とサービス <ol style="list-style-type: none"> ①生活保護制度 ②老人福祉 ③障害者 ④児童福祉・母子福祉 4. 社会福祉の現状と今後の課題 																				
講義内容	<table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>社会保障制度と社会福祉(概要)</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>医療保険について</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>介護保険について</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>所得保険について</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>公的援助、高齢者福祉について</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>障害福祉について</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>子ども家庭福祉について</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>試験</td> </tr> </table>					1回目	社会保障制度と社会福祉(概要)	2回目	医療保険について	3回目	介護保険について	4回目	所得保険について	5回目	公的援助、高齢者福祉について	6回目	障害福祉について	7回目	子ども家庭福祉について	8回目	試験
1回目	社会保障制度と社会福祉(概要)																				
2回目	医療保険について																				
3回目	介護保険について																				
4回目	所得保険について																				
5回目	公的援助、高齢者福祉について																				
6回目	障害福祉について																				
7回目	子ども家庭福祉について																				
8回目	試験																				

専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

科目名	看護関係法 Medical and Nursing		講師名・ 実務経験	鈴木 諭子・専任教員	
講義時期	3年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	3年次11月				
評価方法	グループワーク・レポート(20%)、筆記試験(80%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 (医学書院)				
学習目標	<p>1. 医療を取り巻く社会の変化と法律について理解できる。</p> <p>2. 保健医療における重要な関係法規を理解できる。</p> <p>3. 保助看法を理解し、看護職者の免許、業務などの法的解釈を理解できる。</p>				
講義概要	<p>1. 法の概念</p> <p>2. 看護法 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律</p> <p>3. 労働法 労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、 育児休業、介護休業法</p> <p>4. 医事法 医療法、医療を支える法 (医療介護総合確保法、独立行政法人地域医療機能推進機構法、 移植医療に関する法律、人の死に関する法律、緊急時の看護・医療に関する法律)</p> <p>5. 保健衛生法 地域保健法、健康増進法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、 母子保健法、母体保護法、がん対策基本法自殺対策基本法、 難病の患者に対する医療などに関する法律 (感染症の予防及び感染症の患者に対する 医療に関する法律、予防接種法)</p> <p>6. 薬務法 医薬品、医療機器などの品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法</p> <p>7. 社会保険法 健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律(介護保険法) 国民年金法</p> <p>8. 福祉法 社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、障害者に関する法律</p>				
講義内容	<p>1回目 法の概念・看護と法</p> <p>2回目 看護師保健師助産師法</p> <p>3回目 医療法・医師法</p> <p>4回目 医療・看護に関するグループワーク</p> <p>5回目 薬事法</p> <p>6回目 社会福祉に関する法律</p> <p>7回目 労働衛生に関する法律</p> <p>8回目 試験</p>				